

学校訪問

2023.6.26

今日は、「学校訪問」の日である。福島市では、2年に1回行われる。昔は、毎年だった。学習指導案を作成し、授業を見てもらい、指導助言をしてもらうということを、毎年行うのと2年に1回行うのでは、けっこう違う。以前は、教室に人が入ってきて、自分の授業を見られることに抵抗を示す先生もいたように思う。今は、いつでも教室に人が入ってきて見てもらっても大丈夫な雰囲気になってきた。一番、教室に入るのが多いのは校長であろう。

国語の授業を担当していた頃は、学校訪問の度に、どんな授業をしようかと考えたものである。その結果、多くの失敗をしてきたように思う。何か、特別なことをやらなければと勘違いしていたのかもしれない。普段とは違うことをしようとしていたのかもしれない。言うなれば、授業というものがわかっていなかったということである。

授業は、うまくいかなかった。だが、指導助言をいただいたことは、その後に生かしてきた。内容によっては、そのときは理解できなかったが、後になってから、「ああ、そういうことか」と腑に落ちることもあった。

学校訪問では、授業を行うことが一番大事だが、指導助言をその後に生かすことも大切である。そしないと、授業は向上していかない。その成否は、指導助言の内容に左右される。指導助言の担当者は、十分な準備をして学校訪問に臨むであろう。しかし、指導助言の内容が、授業者に伝わり、理解され、その後の実践に生かしてもらえるかは、指導助言者の力量による。翻訳力などの問題である。

指導助言者にとっては、有意義な研修の場である。わずかな時間で、この授業者に、どこまで話をするか、どのように話をするかを判断しなければならない。事前に、授業の設計図である学習指導案を見ているため、ある程度の予想と準備はできる。授業者に伝わるか、理解してもらえるか、そして、授業者の心に火をつけることができるかどうかは、むずかしい問題である。授業者が、指導助言者よりも年長であるケースも多い。気を使うであろう。

野田中学校では、指導助言の内容を最大限に生かすために、学校訪問後に、指導助言の内容と授業者の反省により修正を加えて、別なクラスで同じ授業を行う。きっと、授業はよくなるはずである。授業者である先生方に、自分の授業が改善したという実感や手ごたえをもってほしい。それが、自信となり、次への意欲へとつながる。

そう考えると、学校訪問は大事な大事な1日である。2年前の学校訪問では、各教室の生徒たちの表情が違った。今日も、生徒たちの真剣なまなざし、じっくり考える表情、生き生きと発表する姿、そして、わかったという笑顔が見られるはずである。そんな1日であってほしい。